

貨客船で部材輸入

松江の企業、境港で初荷式

小松電機産業（松江市乃木福富町、小松昭夫社長）は、主力のシートシャッター「門番」の新型を製造販売するため環日本海定期貨客船を利用して韓国からアルミ製の部材を月1回定期的に輸入することを決め、3日、境港市昭和町の国際旅客ターミナルで初荷式を行った。5月にソウル支社を現地法人化するとともに近隣都市に工場を設けており、7月から日韓両国で新型「門番」の販売を始める。初荷式には同社や環日本海経済活動促進協議会、鳥取、島根両県、運航会社のDBSクルーズフェリー社の関係者ら約40人が出席。D



シートシャッター部材のコンテナを積んだトラックの前で初荷の出発を祝う関係者。3日、境港市昭和町

アン副社長は「貨客船B S社のユニ・ギョフが就航して今月末で2

年になる。東海―ウラジオストックの貨物は好調だが、今回をきっかけに東海―境港の貨物が増えることを望む。小松社長は「新型『門番』を世界に広めていきたい」とあいさつ。関係者がテープカットの後、初荷のコンテナを積んだトラックの出発を見送った。

初輸入されたのは、アルミ製のフレーム（長さ6㍓）500本とシートを巻き取るドラム220本。40㍓コンテナ1個に積み込んで運ばれた。今後毎月

1回、同コンテナ1個分を韓国・東海港から境港に輸入する。